

2019年度 全国審判長会議 会議資料

2020年2月23日（土） 10:00～16:00
芝学園中学校高等学校会議室

全国審判長会議の趣旨説明

- ・次年度各種事業および都道府県における新ルール等伝達をスムーズに実施するため、審判長会議を2月に設定しました。
- ・現在JBA審判は改革期です。従って様々な変更点を日本全国で共有していくため、説明そして資料が多く皆さんにご迷惑をおかけしますが、ご理解をよろしくお願いいたします。
- ・なお、全国審判長会議は決議機関ではありません。従って、2月22日に開催された第3回審判委員会での決議事項を報告としてお伝えすることとなりますが、ご意見ご質問は遠慮なくお願いします。
- ・また、6～8月に各ブロックで開催するブロック連携会議で直接皆さんの様々なご意見を伺います。是非よろしくお願いいたします。

本日の流れ

10:00～15:00 各種事業等説明（12:00～13:00昼食）

15:00～16:00 新ルール、プレーコーリング・ガイドライン等について

1. 挨拶
2. 2019年度事業報告および2020年度事業計画
3. 各種ライセンスに関して
4. 全国大会の在り方
5. 2019年度インテグリティに関して
6. 都道府県事案報告
7. ブロック事案
8. 2021-23シーズンFIBA推薦について
9. その他
10. テクニカル部会より

①JBA事業報告 別資料P1

1) 審査会・認定講習会結果

OS級昇格者19名 (男性14名女性5名) 別資料P2

※S級審査会は、2018年度から男女とも同じ審査員で選考し基準の統一を図った。

一次審査88名 男性62名 (B26名F36名) 女性26名 (B14名F12名)

一次合格32名 男性21名 (B11名F10名) 女性11名 (B 7名F 4名)

二次合格18名 男性13名 (B 9名F 4名) 女性 5名 (B 4名F 1名)

※二次審査不合格者全員へ三次審査受講意思確認実施

※受講確認後、二次審査評価上位該当者として、5名選考

三次審査 5名 男性 3名 (B 1名F 2名) 女性 2名 (B 1名F 1名)

三次合格 1名 男性 1名

※2020年度は三次審査を実施しない。

OA級昇格者53名 (男性39名女性14名) 別資料P3.4

S・A級人数推移 別資料P5.6

○新規T/1/2級審判IR合格者 (T級2名、1級7名、2級52名) 別資料P7

2) BLGチャレンジについて

男子トップリーグ担当を希望する女性審判に門戸を開く

2017年度 (BLG2年目) FIBAライセンスの女性審判をトップリーグ担当に

2018年度 (BLG3年目) S級女性審判に対しBLGチャレンジを実施 (3/4名合格)
合格者3名中2名はBLGカテゴリー3からカテゴリー2へ昇格

2019年度 (BLG4年目) 1/4合格

※BLG担当女性審判7名 (FIBA4名、Bチャレ3名)

※B1担当2名、B2担当5名

2020年度 (BLG5年目) 6名受講予定 (受講資格について別途決議)

3) Wリーグ担当審判選考会

担当外となったWリーグ担当希望審判に対してのトライアウト

2020年2月15日 (土) 16日 (日) 社会人チャンピオンシップで実施

審査5名 合格者1名 → 合格者は4月開催最終選考会へ

4) トップリーグ研修一本化

2018年度 JBAが求めるS級としての判定・メカ等を統一していくためにBLG/WJBL別開催で実施していた研修会を合同で実施する事とした。

2019年度 さらにT級も合同で実施し、情報の共有および統一化を実施

5) 2020年度版ルールブック改正

2020年度版を3月中旬を目途にHPにアップできるように準備をしている。

また、2020年度版は10,000部発刊。今後毎年発刊すべきか検討課題。

6) 3×3審判およびTC (トーナメントチーフ) 育成

2017年度 3×3登録制度開始

2018年度 3×3トップリーグ担当審判制度へ

2019年度 3×3トップリーグ担当審判は50名程度に

TC育成：3×3におけるインストラクター、大会当日の審判責任者としての役割業務。

TC13名を20名にしたい。

プレーコーリング・ガイドライン (映像リンク付) を3月中に作成しHPへ。

7) 審判長会議2月開催固定化

- 都道府県審判委員会が次年度事業計画（審判派遣等）を立てやすくなる
- ルール変更等の都道府県伝達講習会を3月中に実施が可能になり、4月1日からスムーズに移行できるようになる。
- 派遣審判員調整、派遣審判の業務調整が早くできる。

8) BWB開催によるYOCの日程変更

- BWBが8/14（水）～17（土）開催により、FIBA研修とした。
- それに伴い、同時期開催予定であったYOC（U28研修）を1/6（水）～8（金）BLGU15チャンピオンシップへ変更した。

②JBA管轄ブロック事業報告

1) 事業一覧 **別資料P8**

2) 会計報告 **別資料P9.10**

実施2年目でしたがスムーズに進めることができました。ブロック会計責任者の方々、ご協力ありがとうございました。次年度に向け予算作成等改めて連絡しますのでよろしくお願ひします。→**2020年度はブロック内審判IR派遣に20万予算化。**

3) ブロックA級ランキング表作成 **非公開**

2021年度A級降格制度実施に向け、2019年度はブロックランキング表作成

目的 ・ブロック内A級の状況を明確にする

・全国大会でA級を多く割当（ブロック内派遣、都道府県派遣）する

ようになったため、全国大会割当担当者が参加審判の状況を把握する

→**2020年度はさらに進めていく**

③JBA講師派遣 別資料P11

2019年度から、JBAから派遣する講師については、下記の場合とした。

- ・ブロック派遣講師（A級更新・2級IR新規更新等） 2大会4人まで
※北信越・北海道については、予算内で追加派遣可（JBAに一任）
- ・都道府県派遣講師 全国大会開催2年前から派遣可（原則2回）
対象全国大会 インターハイ・全中・国体

④海外派遣 別資料P12

① JBA事業計画について **別資料P13**

1) 審判委員会改選期

部会員は、4月改選（事務総長決裁）

委員長は、6/28（土）評議員会後の臨時理事会で決定

委員は、7月理事会で決定

2) 3×3トップリーグ研修（5/16.17、50名程度予定）

5対5と同様に3×3においても2019年度から実施。プレミアEXE、JapanTourの試合数増加に対応するとともに、判定基準・メカ・ゲームコントロールの共有が目的。

3月中を目途にプレーコーリング・ガイドライン（映像付）を作成予定。

3) トップリーグ研修（①6/26～28、②7/3～5）

オリンピックの関係で例年と日程変更（現在場所等調整中）

対象 S級、S級一次審査合格者、T級1級IR

2 (2) 2020年度審判事業計画

4) 4月審査会 (京王杯4/4.11.18、関東女子4/11.12)

- 課題 ○4/11は開催が重なるため多数 (8名×2=16名??) のIRが必要
 ○試合数の関係で、割当可能審判員数が..

京王杯 **75名** 4/4 (10試合30名) 4/11 (10試合30名) 4/18 (5試合15名)
 関東女子 **48名** 4/11 (8試合24名) 4/12 (8試合24名)

【S級審査会ブロック推薦男女人数の確認】

	S級一次審査		BLG チャレンジ	Wリーグ担当選考				合計
	F	B		新S	休	下位	外	
京王	39	27	6?	/	/	/	/	72?
関女	14	14	/	5	1	5	1	40

2021年度のBLGチャレンジおよびWリーグ担当選考については、
 決議事項 (7) トップリーグ担当審判選考で審議

2 (2) 2020年度審判事業計画

5) Wリーグサマーキャンプ日程および開催場所変更

2020年度はオリンピックの関係で、7月開催から9月4日（金）～6日（日）に変更となり、群馬県高崎市で実施。

○2019年度同様、2020年度も女性審判強化合宿に特化し、担当審判研修および女性S級一次合格者強化合宿（トップリーグ研修参加可）は廃止とする。

○2021年度については、S級一次審査、Wリーグ担当最終選考会を本キャンプで実施する方向で今後協議。女性審判研修については別途検討。

6) 天皇杯皇后杯スケジュール大幅変更

天皇杯皇后杯1stラウンド → 東中西3地区開催（中地区でS級2次審査）
2ndラウンドからは、天皇杯皇后杯別開催

7) ウインターカップ、U15選手権（Jrウインターカップ）の日程変更

ウインターカップ（12月末）、U15選手権（1月初旬）

8) 全国審判長会議

2021年2月23日（火祝）予定

※2/20.21は、B2/3、Wリーグ、社会人チャンピオンシップ（20～22）開催のため

※審判長会議・ブロック連携・ブロックIR責任者合同会議は2/22（月）予定

9) U28YOC

BLGU15チャンピオンシップ 2021年3月28日（日）～30日（火）東京都



JBA REFEREE

27日（土）座学28.29実技

②JBA管轄ブロック事業

1) ブロック事業計画 **別資料P14**

○2大会4人までの派遣で派遣方式が昨年度と変わってきた。**一括派遣→分割。**

○北信越（2020/21インターハイ実施）、北海道（1級IRが1名）のため、
JBA予算内で派遣を実施。なお派遣についてはJBAに一任。

○2020年度ブロック役員一覧表 **別資料P15**

2) 2020年度S級審査ブロック推薦について

各ブロックの推薦枠について協議・決定（JBA事業計画で協議済）

男性枠について・・・各ブロック2名+1名（関東4名+2名）

+1名（関東+2名）についてはJBAへ要相談

女性枠について・・・現在ルールなし → 今後状況をみて検討課題

3) A級ランキング表作成

2021年度から実施するA級降格制度に向け、A級としての意欲・技術不足者を

2020年度末にJBAへ提出。2021年度は該当者をJBAで審査。

※ブロック内審査のためIR派遣費用をJBAから各ブロック20万（関東40万）¹³支給

3 (1) 審判および審判IR登録状況

別資料P16.17

2019年度1月現在

審判		審判IR	
S級	138名	T級	26名
A級	276名	1級	76名
B級	5,030名	2級	282名
C級	9,076名	3級	2,550名
D級	15,521名		
E級	25,673名		
合計	55,714名	合計	2,934名

課題点 B級年次推移 **2017年度との比較で - 485名**

2017 (5,515名) → 2018 (5,250名) → 2019 (5,030名)

1) フィットネス本数について **別資料P18**

年齢基準をフィットネス実施日の年齢から該当年度の年齢とする

目的 年度中途での誕生日による不公平感をなくし、基準をシンプルにする

女性の上限をFIBAに合わせて66本に

目的 男性の上限と同様に女性の上限もFIBA基準に合わせる

2020年度からのフィットネス本数

トップリーグ担当以外の本数変更

目的 フィットネス基準を下げることで、都道府県におけるB級審判の増加

※近年、B級審判員の減少している現状に対応

2023年度以降トップリーグ担当審判はFIBA基準および移行期間

目的 ○**トップリーグ担当以外と2極化**。そしてクラブ、一般の方々に対して

トップリーグ担当審判資格に対する説明責任を果たす。

※FIBA基準をクリアしている審判がトップリーグを担当している

○2020~22年度については、**男性は現状と同様、女性は上限66本**

3 (2) B~E級ライセンス ①2020年度変更点

2) U18の参加手続きおよび謝金等の取扱い ※2020年2月10日JBA理事会承認事項

静岡県事案・・・U18審判員が他県での研修会に参加

三重県事案・・・中学生のSNS投稿 **別資料P19~21 (非公開)**

別資料P23~25 (非公開)

基本的考え方・・・**保護者の責任において統一様式にて手続きを行う**

○中体連および高体連主催大会

【手続き】 保護者承諾→保護者が学校依頼→学校の承諾→保護者が協会へ

【謝金等】 謝金は支払わない、交通費・弁当については支給可

○協会連盟主催大会および研修会講習会

【手続き】 保護者承諾→協会へ

【謝金等】 謝金は一般の方々と同様に支給、交通費・弁当については支給可

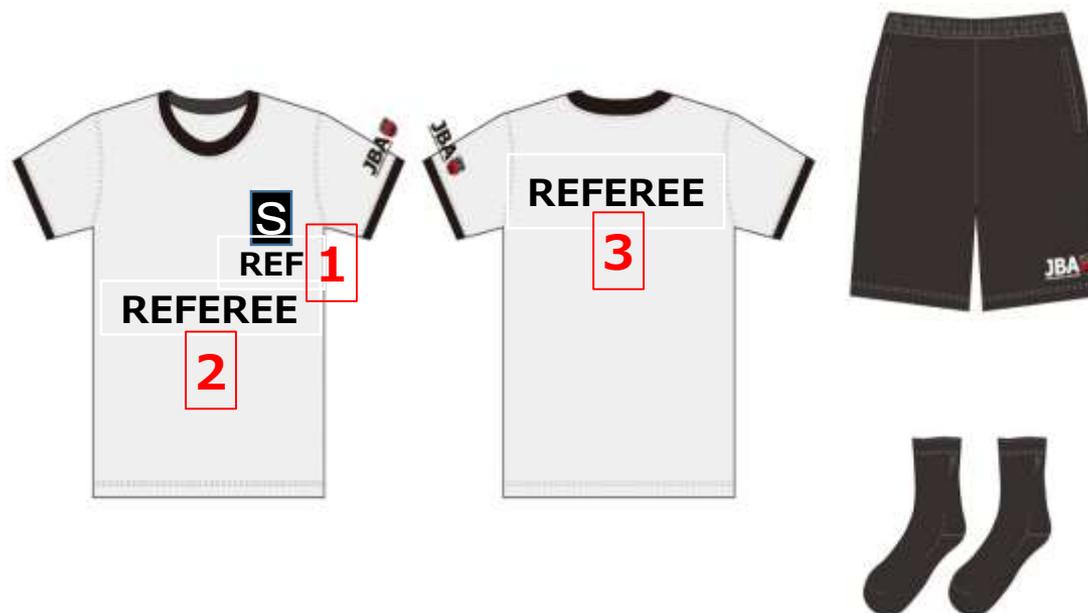
この手続きにより、**U18審判員が正式に全国大会への参加**が可能に

※実施後、修正が必要であれば事務総長決裁対応を理事会承認済。何かご意見等あればお伝えください。

3 (2) B~E級ライセンス ①2020年度変更点

3) セカンドユニフォームの採用について 別資料P26

※2020年3月4日JBA理事会提案事項



※襟は丸首orVカット
※黒ラインは襟のみ
袖にはなし

全国審判長のみなさまのご意見を

ワンポイントでREFREEと入れる場所について ①ワッペン下 ②前面 ③背面
字体・フォントについては、JBA一任でよろしいでしょうか？

②2021年度変更 別資料P27

1) BCD級のeラーニング実施

目的 ○都道府県における講習会実施等業務軽減

座学、ルールテストが不要となる（実技・フィットネスのみ都道府県で実施）

○座学による伝達事項の全国統一化

2) CD級の実技を必須とし、C級は合否有、D級は合否なしとする

目的 ○都道府県によりCD級基準がバラバラであるため統一化

○試合で審判を行うために、実技は必須とのご意見が多数ある現状

○C級とD級については差別化を図るため合否有orなしとする

課題 ○C級とD級の実技については、都道府県の現状に合わせ実施

※ブロック連携会議による総意

○**BCD級における評価基準の全国統一化→評価表の統一**

3) BCD級および3級審判IR更新の実施時期を4月～6月とする

目的 年度当初に受講することで、早く試合に対応できるようにする

※E級および3級IR新規は（通年）とする

3 (2) B~E級ライセンス ②2021年度変更点

2) 受講料の変更 (金額は税別) 別資料P28

目的 ○BCD級のeラーニング実施にともない、受講料を変更する

内容 ○B級 **4,000円→5,000円へ**

eラーニング用にJBAへ2,000円

都道府県分4,000円が3,000円となり **-1,000円**

※座学・ルールテストが不要となるため必要経費減となる

○C級 3,000円は変わらず

eラーニング用にJBAへ1,000円

都道府県分2,000円が1,000円となり **-1,000円**

※座学・ルールテストが不要となるため必要経費減となる

○D級 **2,000円→3,000円へ**

eラーニング用にJBAへ1,000円

都道府県分2,000円はそのまま

※D級人数が多いため全体講習会費用の確保

○U18 **1,000円→2,000円へ**

eラーニング1,000円の増額

※B級と3級IRの両方保持は、3級IRのeラーニングを受講することでB級のeラーニングは免除

※今回は決定ではない。都道府県審判長の方々のご意見、理事会承認により決定

3 (3) A級ライセンス

①2019年度A級ランキング表作成

ご協力ありがとうございました。全国大会割当担当者と共有していきます

②A級降格制度

2021年度にA級降格制度実施

2020年度は、上記ランキング表に評価（例：A B CとしCは降格対象）

2021年度にC評価者に対して、JBAが資格審査を実施

③A級への情報提供

上記①②を実施するうえで、全国のA級に対して情報提供をさらに進める

2019年度 トップリーグ開催期間において月に1回PDFで情報提供

2020年度 トップリーグ開催期間において毎週PDFで情報提供

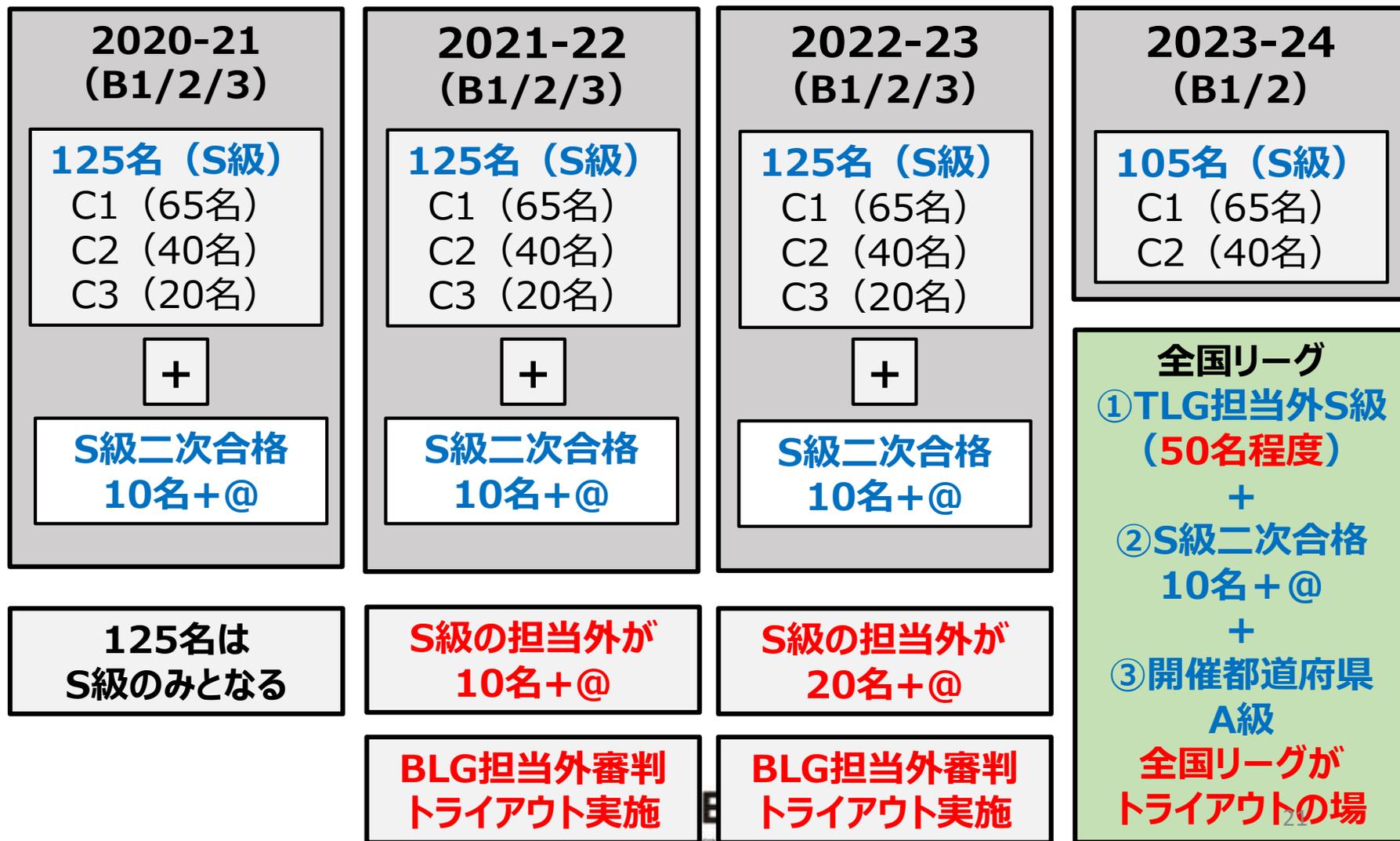
④ブロックIR派遣予算措置

2020年度は、ブロックA級審査のためブロック内IR派遣用に

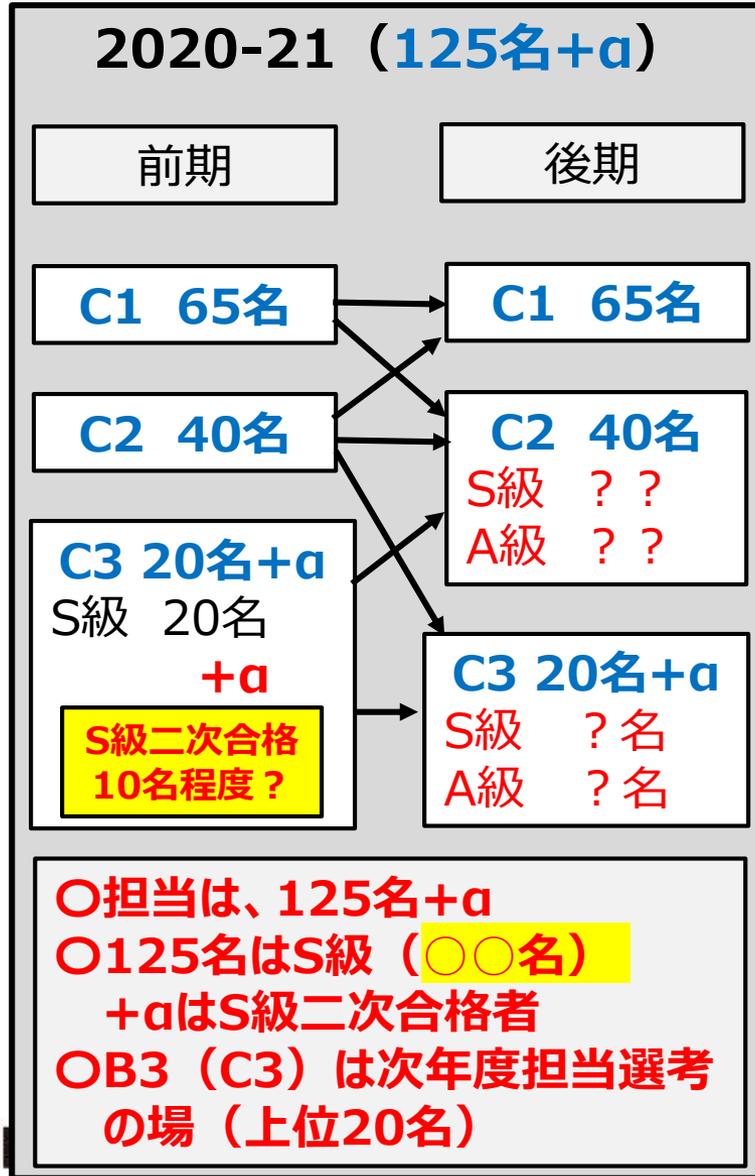
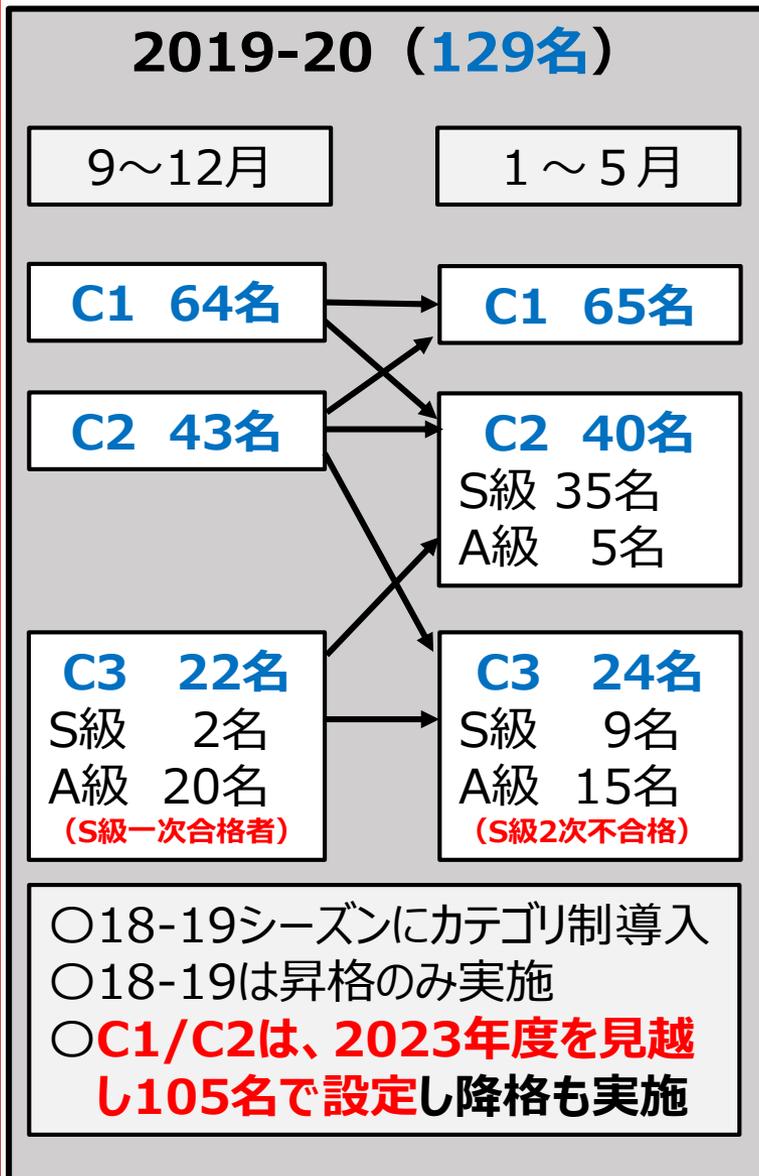
各ブロック20万予算化（関東は40万）

3 (4) S級ライセンス ①BLG

BLG担当審判の流れ (2020/21~23/24)

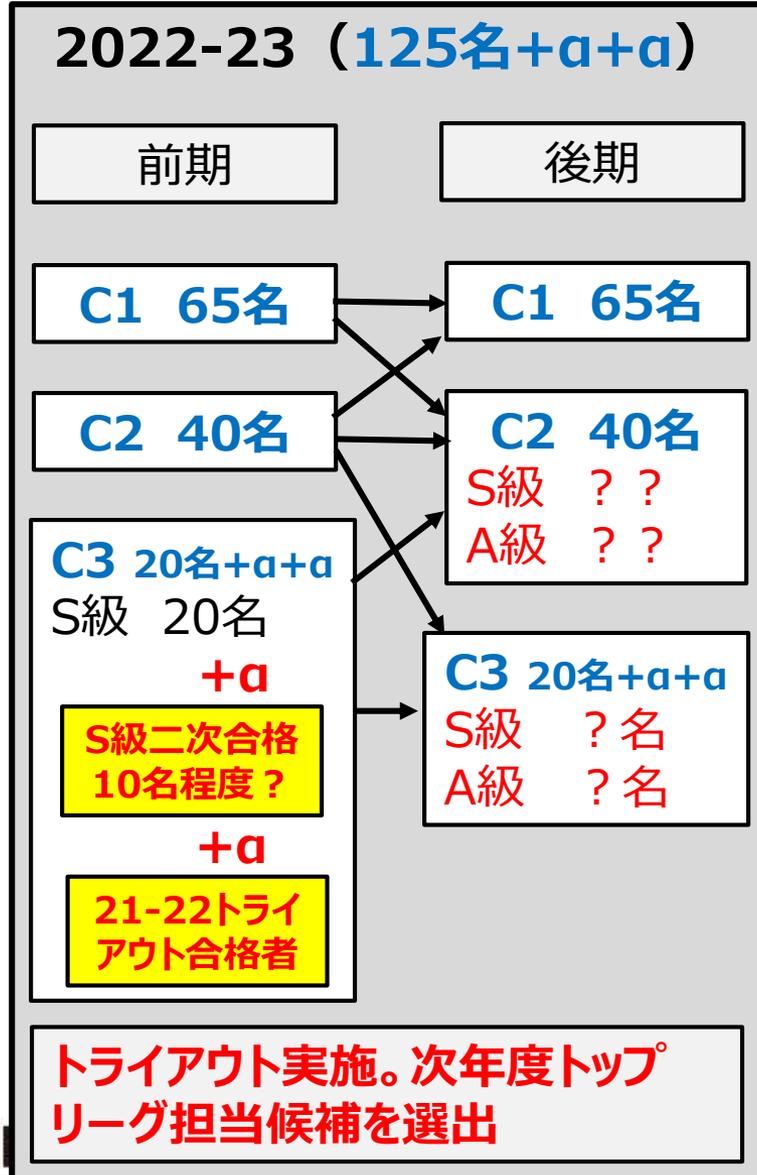
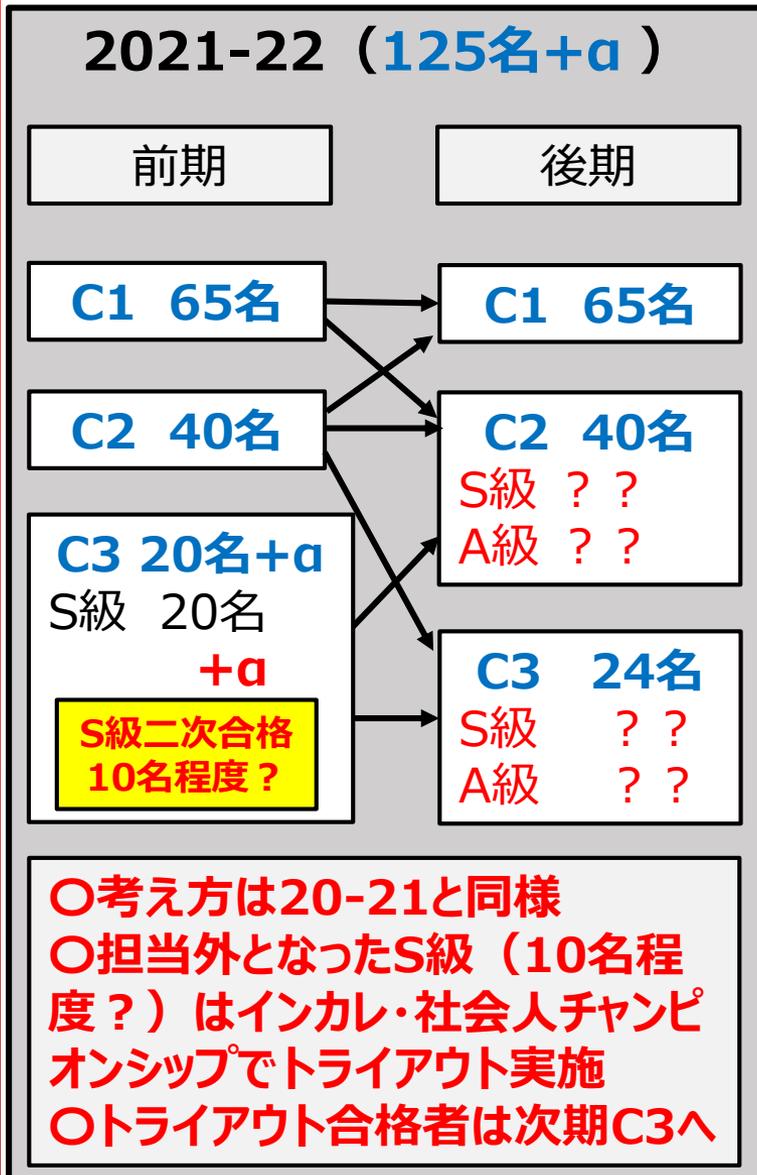


3 (4) S級ライセンス ①BLG



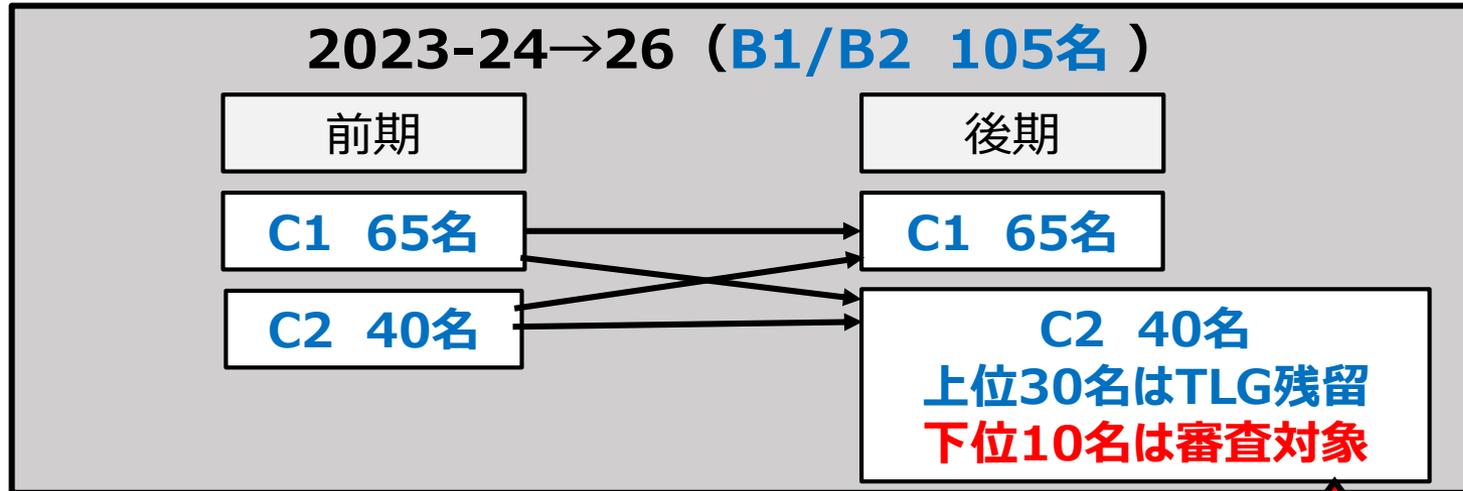
最終評価により125名以外は次年度担当外

3 (4) S級ライセンス ①BLG



最終評価によりC3は次年度は担当外となる

3 (4) S級ライセンス ①BLG



2023-24 (全国リーグ) ※詳細未定のため下記は予定

【担当審判】
トップリーグ担当外S級 (50名以上)
S級2次審査合格者
開催ブロック・都道府県のA級

【大会方式】
9月～2月 3地区リーグ戦 (土日H&A方式)
2月 3地区プレーオフ (8チームトーナメント)
3月～5月 プロチームリーグ (土日H&A方式)

【トップリーグ担当審判選考評価対象者】
トップリーグ担当外S級トライアウト合格者
S級2次審査合格者

TLG担当審判選考

2026-27については今後協議

3 (4) S級ライセンス ②暴排宣言対応

2020年度からBLG担当審判員は原則確定申告提出

状況 ○BLGは、2020年2月5日に警視総監出席のもと【暴排宣言】を行い、記者発表も実施した。その際、BLGに審判を派遣しているJBA審判の責任者として審判委員長が出席した。

○2019-20シーズンは、トップリーグ審判員としてJBA三屋会長からの委嘱状を担当審判に送付し、それに対して担当審判全員が承諾書を提出。

○今シーズンBLG担当者129名中支払い申請の請求者数、、、

○トップリーグ連携機構審判長プロジェクトから審判員の環境改善に向け、スポーツ庁長官あてに提言書を提出 **別資料P29~31**

対応 2020年度からは、JBA三屋会長からの委嘱状に対して、**誓約書を提出**

反社会的勢力とは一切関係を持たないこと

反社会的勢力との取引およびあらゆる不当要求を拒否すること

原則、確定申告を行う、等々

※今後、BLG担当者に対し確定申告および兼職兼業届提出状況調査を実施

1) 2020年度BLGチャレンジについては、4月に開催するWリーグ担当審判最終選考会に入らないことを条件とする

理由 Wリーグ担当審判最終選考会は、Wリーグ評価下位者（5名程度）が参加することとなっているため。現在Wリーグ担当S級女性審判6名が希望しているが、Wリーグレギュラーシーズン終了し最終評価確定後、BLGチャレンジ参加可否について本人へ通知。3月中旬には通知予定)

2) 2021年度BLGチャレンジについては、2020-21シーズン最終評価でWリーグ カテゴリー 1 を条件とする

3 (4) S級ライセンス ④Wリーグ

1) 2021-22～24-25シーズン

適正人数 36名 (FIBA13名、C1/2で24名 : CCの力があればC1)

一次選考会 インカレおよび社会人チャンピオンシップ (担当外審判対象)

※担当外審判の受講資格については今後協議

最終選考会 Wリーグサマーキャンプ (2021年7月予定??)

※基本的には、上記システムにて選考

※2019-20は全試合IRを派遣したが、20-21からは、BLGと調整しIR派遣を実施するため全試合派遣はしない

2) 2025-26シーズン以降の担当審判員構成について

FIBA審判以外は全員女性審判となる

3 (4) S級ライセンス ⑤評価基準

2020-21シーズントップリーグ評価基準点について

- 目的 BLG 2021-22および23-24を見据え、C1/2の評価基準点を細分化
 Wリーグ 2025-26を見据え、C2の評価基準点の細分化。現在CCLレベルであればC1の
 人数制限は行っていないが、今後状況により要協議

BLG評価基準		
100～90	B1 CC	C1
89～85	B1 CC候補	
84～80	B1 B2CC	
79～75	B2 CC候補	C2
74～70	B2	
69～60	B3	C3

Wリーグ評価基準		
100～85	Wリーグ CC	C1
84～75	Wリーグ CC候補	C2
74～60	Wリーグ	

3 (5) 今後導入検討事案

①定年制についての検討（導入可否も含め）

②T級をリタイアした1級IR（66歳～70歳）の方々の全国リーグへのIR派遣

※2023以降、全国リーグでの評価が必要となってくる

③各種統一評価表作成について

- 1) 2021年度各種ライセンス統一化に向け、ライセンスおよび各種大会に応じた統一評価表を作成する。
- 2) 2021年度完全実施に向け、2020年度は各種大会および審査会で先行実施（試行）しご意見等伺いながら進めていく。

④今後整備すべきガイドラインおよび教本

- 1) ルールブック 毎年更新しHPへアップ。2020年度1万冊印刷し販売状況により毎年販売
- 2) マニュアル メカニック・IOTに特化し2年に1度更新発刊（名称変更も視野に）
- 3) プレーコーリング このガイドラインは判定基準に特化しゲームコントロール内容は外す
- 4) ゲームコントロール **2021年度に向けゲームコントロールに特化したガイドラインを作成**

**※インストラクター教本 2021年統一評価表完成そして審判に必要な上記1)～4) 整備完了
2021年からインストラクターのための教本を作成（2年間??）**

2019年4月 全国へメッセージの発信



CLEAN / *Basketball
The Game*

～暴力暴言根絶～

具体的内容

1. JBAにおける暴力暴言根絶の取り組みについて周知徹底

- ① 都道府県協会、各連盟、チーム登録責任者、コーチ登録者、審判登録者全員に文書による通知
- ② 各種大会の代表者会議等での周知

2. 大会プログラムに掲載およびメッセージバナーを会場貼付

- 3. 試合中、コーチが選手に対する【暴力的行為、暴言】をテクニカルファウルとし、1試合で2個の場合は失格退場となる。

プレーコーリング・ガイドラインの改訂（20190401訂正版）

プレーコーリング・ガイドラインとは？

審判、選手・コーチ、そして一般の方々に、競技規則に則った判定基準を具体的に分かりやすくすることを目的に作成（2016～JBAHPに）

※ガイドライン0801から動画をリンクし映像でも確認可能に



ルール変更ではなく、適用範囲を拡大し明確化

7. テクニカルファウル (TF)

ゲームは両チームのプレイヤー、チームベンチパーソネル、審判、テーブルオフィシャルズなどすべての人たちの協力によって成立するものであることを理解することが重要である。また、**ゲームを尊重する精神 (Respect for the game) に則り**、状況と内容を判断し、審判は注意・警告を与えることなくただちにテクニカルファウルを宣してもよい。

(1) ベンチおよびプレイヤーが審判、テーブルオフィシャルズ、相手チーム、自チーム、観客に対して失礼な態度で接すること (ゲームを尊重する精神 (Respect for the game) に反する振る舞い)

- ・威嚇や挑発行為
- ・継続的、もしくは大きなジェスチャーなどでゲームに対して異論を表現すること
- ・不適切な表現や言語
- ・ベンチがゲームの進行や運営に支障をもたらすこと (ベンチエリアで立ち続ける等)
- ・ボールや身に着けているものなどを強く叩きつけたり、投げたりすること
- ・用具・器具を破損するおそれのある行為 (リング支柱を叩いたり、看板を強く蹴るなど)
- ・審判に対して、異論を唱えるためにボール等を投げつける行為
- ・観客に対して、不作法にふるまったり、挑発するような言動をとること
- ・**コーチが選手 (自チーム・他チーム含む) に対して、人権・人格、身体的特徴、自尊心等を否定する暴言・暴力的行為**
- ・ゲームの手続き上の規則、運営・管理に関して違反すること

調査目的

1. 本丸である日常における暴力暴言根絶を実現するための第1歩
2. テクニカルファウルという指標を基に試合における現状を明確（数値化）
3. 調査結果を基に今後の方向性、課題を明確にする

調査対象試合

1. 都道府県で8月までに開催したU12/U15/U18各大会の準々決勝以上の試合
2. 8月開催全国大会U18（インターハイ）、U15（全国中学校）全試合

調査項目

1. 各都道府県審判責任者によるインテグリティ状況の過年度比較（印象）
2. 調査対象試合におけるテクニカルファウルの個数および具体的内容

調査結果総括

コーチの方々の良識的な対応により、試合中における暴力的行為・暴言は過去と比較して少なくなっている。その上で都道府県は100試合に1件、インターハイは20試合に1件、全国中学校は33試合に1件が暴言暴力的行為によるテクニカルファウルが発生。全国大会の方が割合が高い。

調査結果（インテグリティ案件テクニカルファウル事例）

NO	カテゴリー	男女	事 例
1	インターハイ	女子	ベンチで選手に暴言「バカ・チビ」
2	全国中学校	男子	高圧的に選手に接し、「オイやバカヤロウ」などの発言
3	U12	男子	コーチが選手に対して、おい！と強い口調で叫んだ その後、対戦チームのコーチも同様の暴言がありTF
4	U12	女子	コーチが選手に対して、大きな声で、アホかと、暴言
5	U12	男子	コーチが選手に対し「お前のせいで負けるんよ」と大きな声で罵倒した そのTF後も選手に「おまえのせいよ。ええかげんにしろ」などコート内に入り、 大きな声で執拗に罵倒し続けた（TF2回で失格退場）
6	U15	女子	コーチが選手に対して「クソ」と言い、その後「言ったことをやれ」と怒鳴りつけた
7	U15	男子	自チームの選手に対して「おい！」と言ってベンチ前に呼び止め、コートに一步 入り、選手と対峙して
8	U18	女子	コーチがベンチに戻ってきたプレイヤーに向かい「何回言うたら分かるんや、バ カ！」と周囲に聞こえる大きな声で怒鳴った。
9	U18	女子	コーチがファウルをした相手選手に対して「おい！」等大声で威嚇的な発言を 繰り返した
10	U18	男子	選手に対して、バカと怒鳴った。その後、審判に対して「俺が誰か分かっている のか」という発言あり。（それに対しては対応できなかった）

2019年度ウインターカップにおいて、
インテグリティに関するテクニカルファウル数は、

0件

4. インテグリティ ①全国の状況

ウインターカップ後の新聞記事（朝日新聞2019/12/30）

暴言・暴力 見える化と意識改革

「ばかやろう」と試合中に監督が自分のチームの選手を罵倒する。こんな光景が、一昔前のバスケットボールの試合会場では日常的だった。それが減りつつある。今大会を取材して感じたことだ。

2012年に大阪市立桜宮高の男子選手が指導者の体罰が原因で自殺する事件が起きた。それでも、現場での暴言、暴力はなかなか改善されなかった。全国高校体育連盟（高体連）の体罰認定や日本スポーツ協会に寄せられる相談は全競技でバスケットが最も多い。問題を解決すべく、日本バスケットボール協会は昨年12月、インテグリティ委員会を設置した。

方策の一つとして行ったのが、テクニカルファウル（TF）の運用規定の改定だ。試合中に監督が選手の人格を否定するような行為をした場合、TFを取ることにした。

さらに、数を集計し、暴言、暴力の状況の見える化を図った。今年、小中高校生の都道府県レベルの大会を調べると、新しい運用に触れたTFは21件で、約100試合に1回だった。「おまえのせい

で負けるんよ」などと言い、TFを2回受けて退場となった監督もいた。高校総体では、102試合で5件となり、20試合に1回と比率が上がった。全国大会だと暴言が出がちなことも分かった。

こうした取り組みで、監督が自重したり、周囲から注意の声が出たりするようになったという。今大会前には、インテグリティ委の宇田川貴生委員長が監督や主将を集めて、現状とTFの運用について改めて説明し、理解を求めた。今大会では新運用のTFは一つもなかった。

試合中是一部で、本丸は、日常の練習などに行われている暴言、暴力をどうするかだ。宇田川委員長は「試合中はあくまで氷山の一角。だが、試合で暴言をはく監督は日常でもやっているはずだ。これをきっかけに意識改革が浸透していくようにしたい」と話す。（河野正樹）

4. インテグリティ ①全国の状況

監督の言動がひどい。子どもに「アホ」「バカ」の発言、審判の判定に文句。〇〇市内では有名な指導者。それに対して審判はテクニカルファウルを吹かない・・・

コーチライセンス講習会で伝えている事

テクニカルファウルは、人格否定ではありません
TFに対して感情的にならないようにご理解ください

審判からよくあるご意見

経験・実績のあるコーチに対してTFが吹きづらい

若く実績のないコーチにならTFが吹きやすい？ 審判はフェアであるべき

審判としてのリスクマネジメント

コーチへの忖度が自分を守ることにはならない

保護者・観客は見ている。映像がある。SNSの時代。

2020年2月3日放送同番組にて、コーチの暴言暴力根絶に関して
JBAインテグリティ委員会が推進している取り組みが
視聴者投稿として放送されました。

4. インテグリティ ①全国の状況

JBAでは、インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）に則り、「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム」を推進していきたいと考えています。これは、ゲームに関わるプレーヤー、コーチ、レフェリー全ての協力でゲームの価値を高めようとする取り組みであり、ゲームを尊重する精神「リスペクト・フォー・ザ・ゲーム」にそったものでもあります。

バスケットボールのゲームは、ゲームに関わる関係者のみならず、観客の存在も欠かすことができません。プレーヤー、コーチ、レフェリー、観客も含めてゲームの価値を高める努力をすることが必要です。そして、そのためには**コーチの振る舞い（行動や行為）**も非常に重要になってきます。コーチの振る舞いは、ゲームに関わる関係者（プレーヤー、レフェリー）に直接影響があるだけでなく、**ゲームを観ている観客の方々**にとっても大きな影響を与えます。

そこで、コーチの振る舞いについてある一定の基準を設けてテクニカルファウルの対象とし、**ゲームの価値を下げない取り組み**を推進することとしました。

【テクニカルファウルの対象となる振る舞い（行動・行為）】

1. コーチのプレーヤーに対する暴言

- (1) 人格、人権、存在を否定する言葉 〈具体例〉 最低、クズ、きもい、邪魔、出ていけ、帰れ、死ね、てめえ、この野郎、貴様
- (2) 自尊心を傷つける、能力を否定する言葉 〈具体例〉 役立たず、下手くそ、アホ、バカ
- (3) 身体的特徴をけなす言葉 〈具体例〉 チビ、デブ
- (4) 恐怖感を与える言葉 〈具体例〉 殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの？、試合出たくないの？

2. コーチの暴力的（攻撃的・虐待的含む）振る舞い（行動・行為）

- (1) 殴る・蹴るなどを連想させる行為
- (2) プレーヤーと近接（顔の目の前、腕一本分より近い距離）して高圧的威圧的に指導する行為
- (3) 「おい！」「こら！」と大声でプレーヤーを高圧的威嚇的に指導する行為
- (4) 継続的、かつ、度を超えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為
- (5) 物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為

3. 第三者が不快と感じる振る舞い（行動・行為）

- (1) 不潔な服装、裸足やスリッパでの指導

基準はここから

5. 全国大会のあり方

① 2020年度以降全国大会における派遣審判員数基準の統一化 **別資料P35~37**

- 1) 平等性の担保。9ブロック制の実施により関東東京のウインターカップ、インカレ等での派遣枠を明確にする
- 2) 開催都道府県において審判育成が計画的に実施できる
- 3) ブロックにおいてA級審判の育成強化の目安ができるように
- 4) 全国大会担当者が派遣数基準統一化により業務軽減となる
※各ブロックからのA級ランキング表が割当作業に役立つ

② U15選手権、社会人チャンピオンシップにおいて審判研修会を廃止

U15は大会日程等の関係で、社会人チャンピオンシップは大会方式変更のため

※全国ミニについては大会方式が未確定のため今後協議（原則各県派遣1名：U25）

6. 都道府県事案

(1) 試合の勝敗に関わる重大な事案 **別資料P38~41 (非公開)**

岩手県で2件発生。

- ①初期対応（事実確認）→速やかな対応の重要性
- ②TOとの連携によるトラブル防止については重要な課題

(2) **審判員および審判IRに対する指導規則を都道府県・各連盟審判委員会で作成**

背景 昨年度、広島・大分・青森で勝敗に関わる重大なトラブルが発生したため、2019年4月競技規則に【抗議の取扱い】を明記した。しかし、今年度も関西女子学生、岩手2件と重大なトラブルが発生した。

目的 重大なトラブルは全ての大会で発生する可能性があり、トラブル発生時は初期対応（事実確認・事実に基づく対応）が非常に重要となってくる。そこで、各種審判委員会として【誰が、何を、どのように】対応すべきかをルール化明文化し、速やかに初期対応ができることを目的に指導規則を作成することとする

手順 JBA審判委員会が作成した【審判員および審判IRに関する指導規則**別資料P42~43**】を参考に都道府県および各種連盟審判委員会で作成（**専務理事等と要相談**）

※各大会において**都道府県および連盟審判長への報告を速やかに行うこと**の徹底

※罰則を与えることが目的ではない。あくまでも初期対応を明確にするためであるが、テクニカルファウルを粛々と適用するため、重大なトラブルに対しての責任を受け入れる必要有

※何かあったら、速やかに宇田川へ報告相談をしてください。

7. 2021-23シーズンFIBA推薦について

(1) 2021-23FIBA選考について、スケジュールおよび最終選考会議提案まで をテクニカル部会で進めていく

【2021-23ピリオド選考の流れ】

4月 選考会議①・・・対象者選定

※選考基準 下記4項目をすべてを満たしている

(1:年齢、2:審判技術、3:英語力 4:都合・環境)

5月 対象者へ意思・環境確認

6月、7月 TLG研修 (フィットネステストにて録画)

6月～2月 実技評価、語学力チェック (リーグ戦を含む各種大会中に個別実施予定)

10月 選考会議②・・・中間情報共有 (FIBA枠数、対象者状況確認)

2月22日 第3回審判委員会 (最終選考会議)

3月11日 JBA理事会 (理事会承認)

3月中 FIBAよりルールテスト配信・受験、健康診断書等提出

(2) FIBA情報 **バスケットボール界における女性の変革期**

①FIBA国際女性レフェリーの枠拡大

②女子のユース大会において最低女性コーチ1名の帯同義務化

→JBA女性分科会のあり方が今後重要となってくる



8. その他 2020年度主な大会スケジュール

トップリーグ・全国規模大会 = JBA割当て

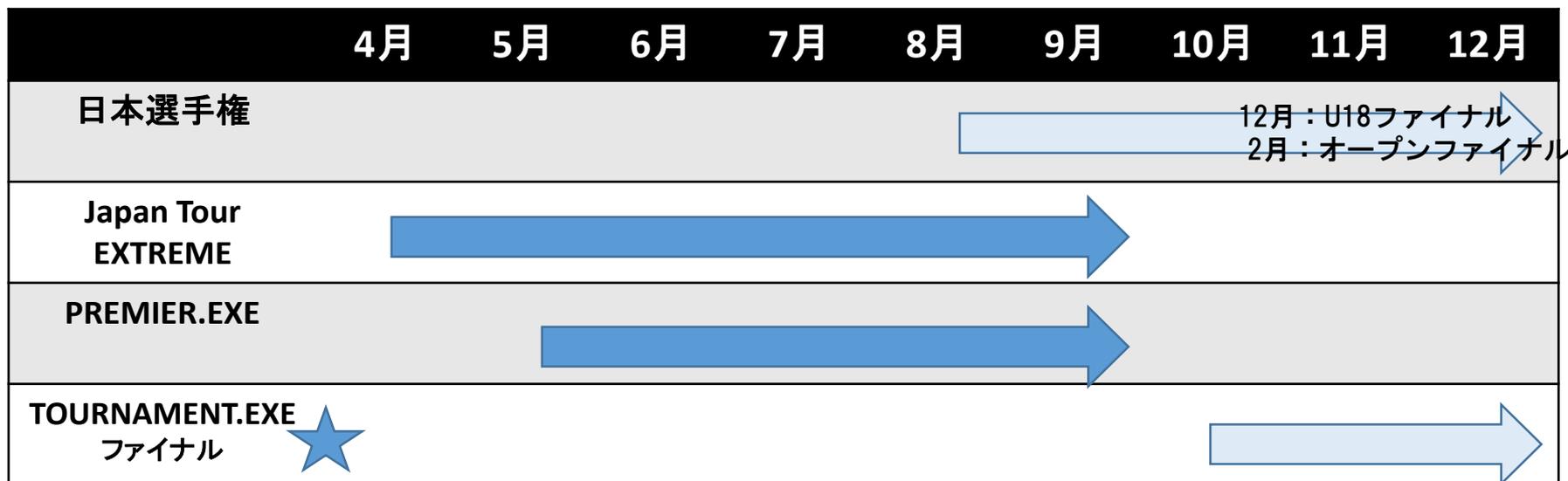
トップリーグ：Japan Tour EXTREME/ファイナル、PREMIER.EXE

全国規模大会：日本選手権ファイナル、TOURNAMENT.EXE FINAL

都道府県・エリア予選 = 都道府県・ブロックでの割当て

日本選手権予選（都道府県・エリア*）、Japan Tour OPEN

TOURNAMENT.EXE、その他各種大会（3W、シブヤ3x3、etc.）



トップリーグ担当
(ブロック推薦・JBA審査)
・ルール ・実技



3x3FIBAレフェリー
(JBA推薦・FIBA審査)
・ルール ・語学 ・実技

1. 公開ツールの活用

◆JBA公式ウェブサイト

3x3競技規則、同ルールテスト、同プレーコーリングガイドライン

◆YouTube、PREMIER.EXEウェブサイト

試合映像配信

2. 大会を利用した情報共有と競技の普及

活動のきっかけ作り、競技規則・判定基準の違いの共有

※JBAでの3x3審判のリスト化は行いません



JBA審判ポータルサイトの活用

目的： 各種書式提出の手間の軽減

- ・提出書式のウェブ共有
- ・提出期限・提出者・提出方法の明文化

➤ 【例】書式はカテゴリごとに分類

- ・ブロック名簿
- ・ブロック事業予算・決算
- ・ブロック連携会議
- ・JBA事業研修会
- ・JBA事業インストラクター派遣
- ・ライセンス



(1) ルールブックについて

①2020年度ルール変更 **別資料P44.45**

②マンツーマンペナルティの処置変更 **別資料P46~48**

現行 フリースロー1本のみ

変更後 フリースロー1本後、ボールポゼッション ※U15は、フロントコートスローインライン
※U12は、TO席オポジットセンターライン

③2021年度からU12ルールブックを統合

(2) プレーコーリング・ガイドライン20200401について **別資料P49~65**

変更修正点 ・ファウルの成立においてマージナルの考え方を記載

・ブロックorチャージ内の記載変更 ・トラベリングの記載変更

・競技規則で想定されていない状況でゲームが止められた場合の対応

3月中旬をメドに、さらに映像を多くリンクしHPで公開予定

8. その他

今後の会議予定

第1回審判委員会予定 2020年5月23日（土）

第1回ブロック連携会議 2020年6月～8月

第2回審判委員会・第2回ブロック連携合同会議 2020年10月7日（水）鹿児島県

第3回審判委員会・第3回ブロック連携合同会議 2021年2月22日（月）18:00JBA

2020年度全国審判長会議 2021年2月23日（祝火） 芝学園（予定）